

# 泣きねいりなんて絶対にはや STOPPING SEXUAL HARASSMENT セクハラに負けないうための七ヶ条

文・橋爪大三郎

「コビーをどうしたら尻を触れちゃった」事件で課長に「こくカラまれても」——カリカリ頭に来て、言う言葉がなかったでと見せ違。『それってセクハラでしょ』、水戸の御公の印籠じゃないけど、かなり鈍感な男でもヒクンとするから不思議。  
『尻がなければ考えられないのが、われわれ人間である。SEXUAL HARASSMENT』という横文字が海狗の向こうから下陸するまで、セクハラは存在しなかった。

セクシャル・ハラスメント。「性的いやがらせ」「性的脅かし」などと訳されている。アメリカでは15年以上前から成例でなれ、すっかり社会に定着している。日本でもこの問題に、地道に取り組んできた人たちがいた。でも、それがひとつの力になったのは、つい最近のこと。まず88年10月、「働くことと性差別を考える三多摩の会」が、アメリカの女性グループの小冊子「性的いやがらせをやめさせるためのハンドブック」を翻訳・出版した。これを、「モア」89年6月号などを各誌が取り上げて、「ホント、ホント」「うん私も」と共感の輪が広がる。同会と「モア」の英断に拍手、拍手。

セクハラが、急に騒がれたのはなぜだろう？  
本気で仕事に取り組む女性が増えた。まずこれが大きい。女性の就職は、結婚・出産までの「暇かけ」みたいに見られてきたけれど、最近では女性の学歴も意識も高まって、実力がついている。好況と人手不足で企業も女性の力なしでやっていけない。これに弾みをつけたのが、「男女雇用機会均等法」(86年4月施行)。  
元来印の女性に、男性の意識が追いつけないのも、セクハラの原因になっている。男社会に甘やかされ、女性を対等なパートナーと見られない、困った縁のついでる男たち。たとえば……あなたの職場のほう、彼ですや。セクハラをきちんと、定義してみれば

ひと口にセクハラといっても、いろいろ段階がある。  
「ハラスメント」といって、それには時間がかかる。なるほど一理あるけれども、それには時間がかかる。とでも待てない。ほかに打つ手はないものか。  
アメリカのセクハラ裁判では、女性が会社を訴えて、軒なみ勝訴している。セクハラを職場に野放しにして、いるのは企業の責任。セクハラは性差別だ。会社はセクハラをなくす義務がある。こういう判例がじゃんじゃん出ている。日本の女性も、「セクハラのない職場で働く権利」を要求し、会社に認めさせるほうが良い。  
その第一歩として、セクハラ男を征伐しよう。  
セクハラ退治の正攻法・七ヶ条

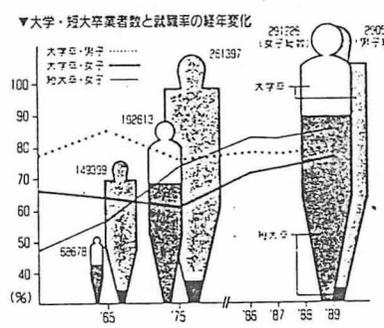
● 1. どんな職場でもすぐできるのは、こんなやり方だ。その1. その場ではつまり、ノーと。最初が肝心。無視しようとする、事態は悪くなる。相手をセクハラ

ちよつとからかう、軽くタツチ、から始まって、深刻なものまで、なかでも特に激辛で手に負えないのを、セクシャル・ハラスメントといふ。というわけじゃないね。  
冗談はさておき、何をセクハラに含めるのか、定義がやっかいた。アメリカの雇用機会均等法委員会のガイドラインあたりを参考にまとめてみると、こうなる——  
「こつちが嫌がっているのに、言葉や行動で、性的な意味にとれる振る舞いにおよんだあげく」  
(1) 性的要求に応じないと、給料・昇進が不利になる。職場をやめさせる、など脅したりする。または、  
(2) 不快感をあたえ、職場に性に関する話をする。または、  
(3) 要するに、職場の誰かに性に関する話をしてあなたを嫌な気持ちにさせているなら、立派なセクハラだ。

見ず知らずの女性を狙う「痴漢」や、アブノーマルな性には興味を持たない「変態」にくらべても、セクハラは始末がわるい。職場や学校で、ふつうの顔をした男性のやることなので、逃げ場がないからだ。  
誰にセクハラされたかというアンケートの回答をみると、深刻なケースでは特に、圧倒的に上司が多い。30代・40代の企業主や部長クラスで妻子持ち、が典型的。同僚の男性から、という訴えはわずかだ。

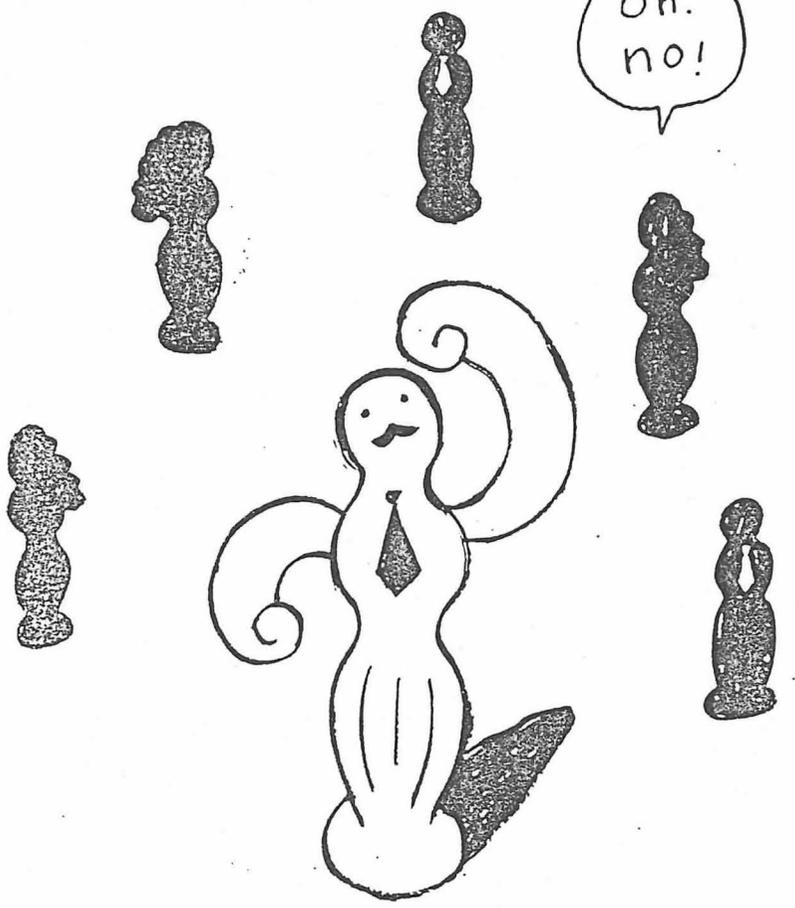
セクハラ、特に11のようなことを平気とする男性は人間にかなり問題がある。困ったことに、そういうのがまだうようよいる。ただ彼らも、同僚の女性にはちよつとかいを出しにくい。その程度の自覚はあり、役付きになつてから、立場の弱い部下に狙いをつけるわけだ。  
この習性を逆手にとるべきだろう。力関係不利とみれば、彼らも手は出せない。根は弱いのだ。だから、セクハラなんか寄せつけない職場の雰囲気を作れば、けつこつおとなしくなるはずである。

● 2. セクハラは、なせ許さないのか  
セクハラを扱った本が、店頭になくさん並んでいる。実例が豊富なのはいいけれど、セクハラがどういう行凶



大人数、大学・短大卒業生の数を表す。高卒者に対する女性の割合も、就職率も増加している。社会に出る女性の絶対数の多いことがわかる。注：このグラフは、文部省「労働力調査」及び「就業率調査」のデータを基に作成したものである。

● 3. セクハラをなくすには、じゃあ、どうしたらいいか？  
女性の社会的地位が向上すれば解決する、という議論がある。女が上司になつてこらん、誰も彼女にセクハラを出さ。これもできれば速攻で、また、社内の手続きに従つて、セクハラを何とかしてほしいと要求する。  
その7. いよいよとなれば、弁護士、労務事務所、女性運動グループなどに相談しよう。その際、記録や証人がものをいう。あつさり職場を辞めたらあなたの負け。  
● 4. 程度が軽いセクハラなら、以上までの手前を踏むついで、打開の糸口が見えてくると思う。  
● 5. もっと深刻な(たとえば、上司と同年も関係を強いられたみたいなど) ケースだと、事件を長沙法にすることで、当の女性をますます苦しめてしまう。だが、公表しないと、セクハラを証明できない。作戦がむずかしい。  
● 6. こういふケースは、早めに弁護士に相談したほうが良い。そして、セクハラ男をこまめにやりこめるかは、本人の判断に任せよう。大それたのは、本人の苦境を救うこと、とりあえずこれ以上のセクハラを食い止める一方、職場で彼女をとりまく仲間づくりを進める。男性もひととめに悪者扱いせず、ひとりずつ味方につける。そしてあべこべに、セクハラ男を孤立させよう。そうやってセクハラ男の再発を防止し、女性が安心して働ける風通しのよい職場になれば、一応よしとしましょう。



He is abnormal.

● セクハラ関係の参考書  
というわけで、セクハラと戦うには、よその会社の実態なども勉強しないためだ。参考書を一冊だけあげておくと、女と男の21世紀を考える会・編著「スクランブル講座/セクシャル・ハラスメント」(JICC出版局・三凡) (四) 冒頭の津原由美さんの文章がよい。ほかの参考書にこんなものがあるか、各地の相談機関の連絡先なども扱っている。  
よりよい女と男の関係のために、「疑問を」

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 専攻は社会学、著書に「冒険としての社会学」(毎日新聞社)など……最近になって「セクハラ」をキーワードとする社会科系の書籍が、セクハラへの取り組みは遅れては来ません。  
● セクハラ退治の正攻法・七ヶ条  
1. どんな職場でもすぐできるのは、こんなやり方だ。その1. その場ではつまり、ノーと。最初が肝心。無視しようとする、事態は悪くなる。相手をセクハラ



# 男女平等社会はまだ遠い 生ぬるコキンホーで満足しちゃだめ

文・橋爪大三郎

昔むかし、私が幼稚園の頃、めでたく卒園という作三  
 月「大きくなら何になる」と先生がみんなに訊い  
 た。「マロン選手」などわけのわからぬことをわめ  
 く私を尻目に、女の子たちは「オヨメさん」「お母さ  
 ん」と口を揃える。「花屋さん」や「あのね、お洋服を作  
 るお店の人」もちらほら、女の子ってなんて現実的な  
 だろ、と子供ながらに私は思った。

女性の生き方は、実に多様になった。相変わらずあく  
 せく働きつめの男たちにくらべ、ファッション、旅行  
 カルチャーと、生活を何倍も楽しむ術を心得ている。よ  
 りどりどりの人生を歩み始めた女性たち。そう、あ  
 なたも、世の中を変えるパワーの源なのです。  
 ● 軍わけの女性たちは苦勞の連続だった

戦前、女性が職業を持つなれて、並み大抵のことじゃ  
 なかった。外へ出て働いていたのは、未婚の女工さんが  
 中心で「職業婦人」ともいえるにはいられず、身元保証、世  
 間の風習なども強かった。

戦後すぐ、占領軍の指令で差別の垣根がこすりとり  
 払われ、男女平等をうたう新憲法も出来た。でもさう簡  
 単に、世の中は変わってこれない。並みいる男をかき分  
 けて、道なき道を切り開くのは、1倍の苦労である。

土井たか子さんはそんな世帯のチャキンホー。男まさ  
 りの特別な存在だ。男たちはさう、レッチルを貼っ  
 て安心したがる。いっぽう女たちは、口惜しかった思い  
 をこめて、彼女を舌坂、オバタリアンと叫ぶけれど、歯  
 を食いしばって今日を乗り切るのはワタシたちよ！

● 仕事も家庭も、生き甲斐も

生活のため、追われるように働いたかつての女たちは  
 那の何れも家庭生活や、専業主婦にあこがれた。でも  
 それが当たり前になってみると、なにも自分を家庭に閉  
 じ込めたくはない、と気がついた。こんどは、仕事に生  
 き甲斐を求める女たちが増えている。  
 となると、一番の難関は、仕事と家庭の両立である。  
 自分が子どもを産まないのをいかに、男たちは  
 家事・育児の負担をすつと女たちに押しつけてきた。ち  
 ゃうと仕事が面白くなりかかったら、女性はいったん  
 職場を離れなければならない。小中学校の先生みたいに  
 出産・育児休暇がとれて、また復職できればいいのだが  
 残念ながら、そんな職場は減少している。

「M字労働力曲線」で聞いたことあるでしょう。現  
 に働いているか、失業中のか(学生や専業主婦や……で  
 ない人)の割合を、労働力率という。それを年齢別に折  
 れ線グラフにしてみると、25~34歳のあたりでいったん  
 落ちこみ、そのあとまた高くなる。これが日本の女子労働  
 力の特徴だ。

いったん落ちこむのはほら、子育てのため。  
 母乳で育てたい、子供が小さい間はそばにいてやりたい  
 ……と、若いお母さんは心をくだく。でも、仕事も続け  
 たいから、また働きに出てM字型になる。しかもそのく  
 びれの部分が、年を追って浅くなってきている。

パートばかりが増えていくなか  
 プランクのあの再就職はむずかしい。それに、子供  
 の病や、PTAの用事……後援をひかれる思いだ。そ  
 こで待遇はイマイチでも、近所の気軽なパート勤めにし  
 よう、ということになる。雇い側にも都合がよくて増え  
 続け、いま、働く女性の1人に1人はパート労働者だ。  
 でもどうして、女ばかりにしわ寄せが来るんだろう。  
 子供を育てながら仕事を続けちゃ、なせいけないの？

● 差別を違法とする判例が出たのはおぼろげだが、

か、差別を違法とする判例が出たのはおぼろげだが、し  
 かも判例もない。ザル法じゃないかと疑いたくなる。  
 ● なんて「ゆー」ことになったかという、実はコキン  
 ホー、妥協の産物なのだ。法案をまとめたのは労働省の  
 婦人少年問題課長だが、そこで使用者(会社)側の代  
 表が、ああだ、うだと文句をつける。だから法案成立に  
 こぎつけただけであつても、ともいえるだろう。  
 ● そこで法律と別に「指針」を定めて、「努力」したかと  
 うかを、労働省が監督することになった。行政指導と合  
 わせ技で一本、という考えなのである。

● コキンホーは、男社会に風穴をあけるか

「男女雇用機会均等法」略してコキンホーが国会で成立  
 してから、早やう年(施行から4年、孫悟空のニオイホ  
 ーみたいに、またまた男中心の日本社会のふいひを、  
 突き崩してくれようか。  
 ● 国際婦人年(1975)と、それに続く「国連婦人の十年  
 (1976-1985)をきっかけに、先進各国では続々コキンホ  
 ーが成立していた。わが国も一九八〇年、女子差別撤  
 廃条約に調印、引っこみがつかなくなる。そこで締結さ  
 れた昭和三〇年(三三三)に、やっとまとめたのが  
 例の「均等法」というわけ。

● コキンホー二年生の、入社したがっかり

でもまあとにかく、「男子に限る」なんていう募集広告  
 はなくなった。第一歩としてはまずまずだ。  
 ● そこで張り切って入社した女性たちが、職場に失望し  
 て転職するケースが、このころ増えているという。  
 要するにコキンホーは、「機会の均等を保証するだけ」  
 そのチャンスを活かすかどうかは、女性の意欲と能力次  
 第なのだ。それが足りない、男性に差をつけられても  
 文句は言えないという、厳しい一面がある。  
 ● 会社側はそれを口実に、これまでの職場秩序(男性中  
 心の年功序列)を急には変えない腹でいる。幾合論で、  
 うんと力のある女性が出てきたら考えようか、とい  
 う程度。だから、(配属・昇進の面が、いざいざ遅れて  
 いる。コキンホーとひきかえに、それまでの女子保護規  
 定も整理された「男並みに働かされるようになっただけ  
 で、拍はっかり」という不満の声も聞かれている。  
 ● 男性も家事をしない、不公平なのだ

家事も育児の負担がそのまんまなのに、さあ男性と対  
 等に競争しろと言われてたって、無茶な話である。  
 ● 数年間の生活時間調査によれば、仕事を持つ女性が平  
 日3時間半も家事をしているのに、男性は半分位しかや  
 っていない。家事は女性がやるものと、決めてかかって  
 いるのだ。若い男性にもさういう意識が根強く、女性  
 とのギャップが目立っている。コキンホーの目的は「女  
 子労働者について……職業生活と家庭生活との調和を図  
 る(第一巻)ことだ」というが、男子労働者だって「職業  
 生活と家庭生活の調和」を図ってほしいものだ。

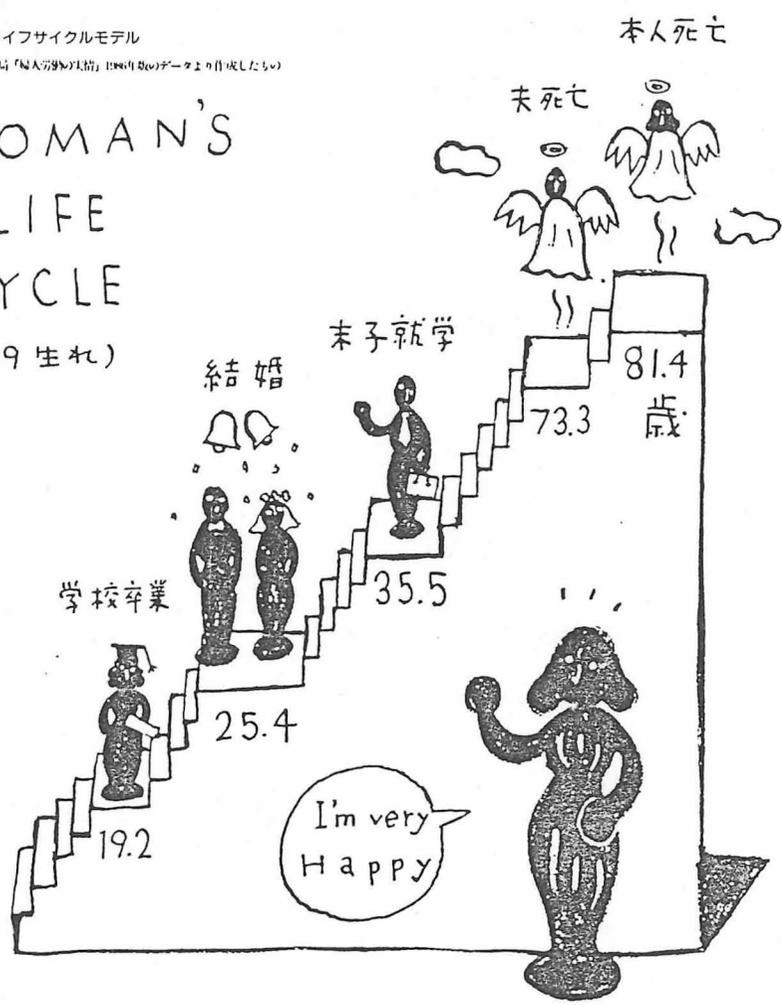
● 自分が一生続けられる仕事を持ちたいという女性にと  
 ついて、いまのコキンホーはまったく不十分だ。  
 ● これからの女性は、自分の人生プランを大事にする。  
 子供の手が離れてから何十年、夫が死んでからも平均十  
 年、生きなければならぬのだ。つまり死ぬに縛られる  
 もしょうがない。それに、下手に家庭に入ると、所得も  
 ぐんと目減りしてしまふ。そこで女性はだんだん晩婚に  
 なり、そのおわりで結婚できない男性も増えている。  
 ● 男性もここで頭を切り換えよう。家事も均等がそれ  
 以上に分担する。女性が働くことも、積極的に後押しす  
 る。というふうでないと、どう手直ししたって、コキン  
 ホーは「均等法」にならないう。家庭でも職場でも、  
 男女が対等に協力して生きていく関係を築くには、法律  
 も考え方もまだまだとどしとどし改めていかないとだめだ

▼女性のライフサイクルモデル

上:労働省婦人局「婦人労働の状況」1989年版のデータより作成したもの

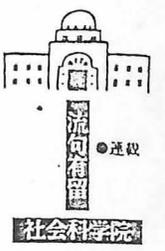
## WOMAN'S LIFE CYCLE

(1959 生れ)



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 専門は社会学。「はじめの構造主義」(講談社現代新書)「冒  
 険としての社会学」(毎日新聞社)などの著書がある。……男女の違いは、生理というより、文化  
 です。もともとなくともよい区別を、無理やり持ちこむ必要はないのです。

「ル・クール」社会科学院では、読者の皆さんの知りたいテーマ・疑問などを歓迎します。社会事象、ニ  
 ュースを見ての疑問、など何でもOK / どしどし編集部「社会科学院」係あてて送ってください。



# このさきどうなるペレストロイカ ゴルバチョフはソ連を救えるか

文橋爪大三郎

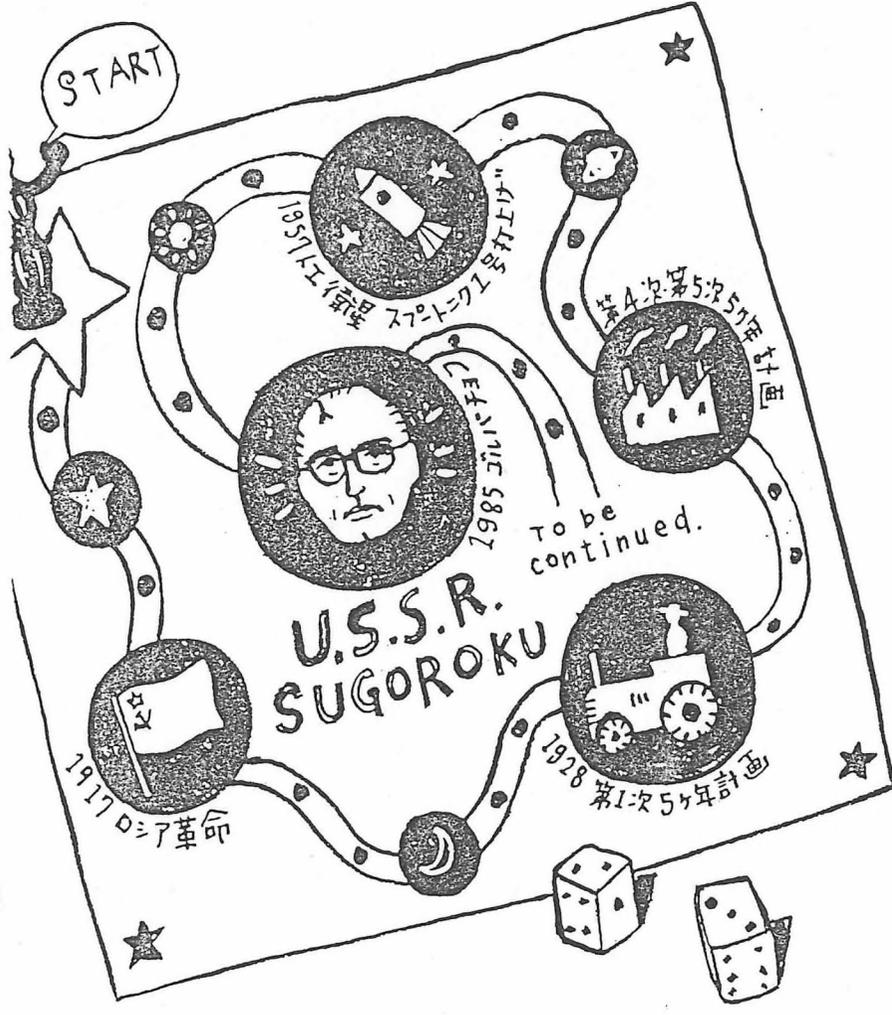
今から35年前、まだ髪の毛もふさふさのゴルバチョフは、故郷スタヴロポリで、駆け出しの共産員だった。「すまないなあ、ライサ。ボクの給料は、君の半分以下だ。おまけに、こんな生活をかけて」  
「この町のため、あなたと一緒に働いて幸せだわ」  
「モスクワ大学のマドンナだった君だ、なにもこんな田舎町に来なくて、ほかにいくらも……」  
「何言ってるの、ミハイール！ あなたは、この祖国が必要とする人物なのよ。私には分かるの」  
「……言ったかどうか知らないけど、教授費かなライサ夫人に別を磨かれ、めきめき出世、とうとう書記長に。まともな大卒の最高指導者は、レーニン以来である。ペレストロイカのために生まれた男」

高齢でよぼよぼのチェルネンコが、一九八五年三月に病死すると、政壇崩壊の苦手、ゴルバチョフが、ライバルを押し退けて後継者に選ばれた。わずか一ヶ月後にはペレストロイカ(立て直し)政策に着手、そのあとも矢張り、大胆な改革を打ち出している。  
そのあとのことはTVや新聞で、皆さんよく存じ。民族危機の嵐が吹き荒れた去年から今年にかけて、ゴルバチョフの声が高まったが、改革のビラチを早く、三月には憲法を改正して、みずから大統領に就任、ひとまず島を乗り切った。

工場はオンボロ、農業はドンドン底の不振。すっかりガタの来た経済を叩き直さうというペレストロイカだが、それには政治の仕組みにもメスを入れたいとメスだ。元凶は共産党である。権限を狭く、そのうえにあぐらをかいての幹部たちがお荷物なのだ。官僚主義、非能率、汚職と腐敗……。レジネフ時代に停滞が目立ち始めたソビエト経済は、いよいよ瀕死の重態である。だが、誰が船の舵にメスをつけるのか？  
●共産党が間違っていた……  
ソ連の国定は、マルクス・レーニン主義だった(念のため、2月号をもう一回読んでね)。何が正しくて何が間違っているかを、決めるのが共産党。共産党はいつ

も正しいから、ほかの党なんかなくていい(一党独裁)。国家のうえに立つて政府を指導し、軍や警察も握っている。共産党が間違ってる。なんて言おうものなら、たちまち「反革命」の烙印を押されてシベリア送りか、銃殺だ。ついでの間までは、そうだった。  
●ソ連の経済は計画経済で、何をどれ位作るか(フルマも、ぜんぶ共産党が指図してきた。でもこれが原因で、経済が停滞してしまう。共産党なんか、なくていい)と書いたところだけ、下手にそれを言くと、どんな目にあうかわからない。  
●ゴルバチョフは、チャンスを持つことにした。書記長になるまでの我慢だ。書記長は、党内の最高権威。党のトップが改革を言い出せば、さすがの共産党も、首根っこを押さえられたかたちになる。  
●ゴルバチョフが幸運だったのは、同じスタヴロポリ出身のアンドロポフがレールを敷いてくれたことだ。アンドロポフはKGBの議長を15年も務め、共産党幹部の腐敗や経済のダメージ加減を、いやというほど目にしてきた。レジネフが死んだあと書記長になった彼は、さっさと汚職の摘発に乗り出し、だらけきった幹部を裁き上げられる。いっぽう、ゴルバチョフやリガチョフのような、有能な若手をどんどん登用。改革が軌道に乗るかに見え、国民も活気づいた。それも束の間、腎臓病であつて死んでしまい、みんながびっくり。  
●かつてはアメリカを追い越すことを目指したソ連が、どうしてこうまで落ち目になってしまったのだろうか？ それを理解するには、歴史を振り返る必要がある。  
●スターリン時代の、負の遺産  
一九三〇年代、相次ぐ五年計画の成功で、書記長のスターリンは、得意の絶頂だった。国中のコンビナートで建設の音が響きわたった。  
でもなに(にも)、舞台裏がある。

当時のソ連は、周りを資本主義国に囲まれて孤立していた。社会主義建設をしようにも、外国の資金はあてにできない。仕方がないからスターリンは、農業に目をうつ  
フルシチョフもまもなく失脚してしまつた。  
●ソ連の工業力は、その頃までかなり水準が高かった。ドイツの戦車も、ソ連の戦車にかかれればイチョコ、世界初の人工衛星スプートニクを打ち上げたのもソ連である。でもレジネフ時代に、コンピュータやハイテクの開発が遅れ、気がついてみたら、虎の子の工業もまったくと時代遅れの代物になってしまつてた。  
●民族問題はペレストロイカの命とりか  
スターリンの負の遺産はもうひとつ、民族問題だ。ナチストに攻められ、大祖国戦争で二千万人も死者を出したのに怒り、スターリンは東ヨーロッパの国々を衛星国家にした。ソ連自体もいろいろな民族の



けた。農業集団化を断り、農民を一ヶ所に集め、無理やり働かせる。取扱はこつこつ、国家が取り上げる。喰うや喰わずの農民が文句を言つと、たちまちシベリア送り。そうやってかき集めた資金を、重工業に集中的に投資した。高度成長の踏み台にされた農業は、こつこつとソ連経済のアキレス腱になってしまった。  
●こういう強引なやり方に、反対の委員も多かった。疑ぐりぶかいスターリンは、それも片っ端から捕まえて、銃殺したり収容所に押しこめたりした(血の粛清)。  
●それでも書記長の権威は絶対だから、スターリンの目の黒いうちは、誰も表立って批判できない。やっと一九五六年になって、フルシチョフ書記長が歴史的なスターリン批判の演説をする。でも、社会の仕組みはそのまま

フルシチョフもまもなく失脚してしまつた。  
●ソ連の工業力は、その頃までかなり水準が高かった。ドイツの戦車も、ソ連の戦車にかかれればイチョコ、世界初の人工衛星スプートニクを打ち上げたのもソ連である。でもレジネフ時代に、コンピュータやハイテクの開発が遅れ、気がついてみたら、虎の子の工業もまったくと時代遅れの代物になってしまつてた。  
●民族問題はペレストロイカの命とりか  
スターリンの負の遺産はもうひとつ、民族問題だ。ナチストに攻められ、大祖国戦争で二千万人も死者を出したのに怒り、スターリンは東ヨーロッパの国々を衛星国家にした。ソ連自体もいろいろな民族の

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 専攻は社会学。「言語ゲームと社会学論」「仏教の言説戦略」(勁草書房)などの著者。……市民が力を合わせれば、社会は変えることができるんだ、としみじみ思う毎日です。日本人もまごまごできない、社会学の任務は重い。

読者のみなさんの知りたいテーマ・疑問などを歓迎します。社会事象、ニュースを見ての疑問、これまでに人に聞けなかったことなど何でもOK / どしどし編集部「社会科学院」係宛にお送りください。

●ソビエト社会主義共和国連邦の構成国一覧 (注) 下の数字は、一億冊店(地名)国連1990年参考に出典資料で作成したもの

国名(連邦)	面積	人口	首都	独立年
アゼルバイジャン共和国	86,600	6,800,000	バクー	1991
アルメニア共和国	29,740	3,400,000	エレバン	1991
ウクライナ共和国	603,628	51,800,000	キエフ	1991
ウズベク共和国	447,400	18,000,000	タシュケント	1991
エストニア共和国	45,248	1,560,000	タリン	1991
カザフスタン共和国	2,003,000	16,240,000	アルマタ	1991
キルギス共和国	199,000	4,140,000	フルンゼ	1991
グルジア共和国	69,700	5,270,000	トビリシ	1991
白ロシア共和国	207,600	10,060,000	ミンスク	1991
タジク共和国	141,500	4,810,000	ドシャンベ	1991
トルクメニスタン共和国	124,400	3,360,000	アシュガバト	1991
モルダヴィア共和国	33,800	4,190,000	キシニョフ	1991
ラトヴィア共和国	64,580	2,650,000	リガ	1991
リトアニア共和国	65,300	3,640,000	ビリニュス	1991
ロシア共和国	17,098,242	145,500,000	モスクワ	1991

このままではソ連がもたない、ゴルバチョフは、大統領制の導入に踏み切った。  
●共産党はソ連の屋台骨だったが、白旗に喰い荒らされたみたい、いまや崩壊寸前、急いで代わりの支えを探さないと、ソ連そのものが倒壊してみんな下敷きになってしまふ。共産党の指図系統が時代錯誤。複数政党制と自由選挙を採り入れないためだ。保守派は国民に愛想づかされてるから、ほとんど当選できないだろう。混乱の過渡期を乗り切ったため、自分が大統領になって、視みを利かせる。先走った民族主義も、自由化への目程がはつきりすれば、少しは落ち着くはずだ。保守派の巻き返しを封じこめ、急進派の行き過ぎにもブレーキをかけるため、共産党より上立つ国家権力(大統領制)がどうしても必要だ。……というのが、ゴルバチョフの筋書きである。  
●このさきどうなるペレストロイカ  
こううまく、筋書きどおりに進むのか、先行きはまったく予断を許さない。  
●スターリンに無理やり、ソ連に編入されてしまったバルト三国は、この機会を逃さず独立したいと焦っている。ソ連の憲法には、共和国は連邦を離脱(独立)できると書いてあるから、止めるのはむずかしい。それを見て、イスラム系の共和国やウクライナあたりも、独立したいと言いつつ、そうなら、ソ連はバラバラ。昔、ウィーンを首都にしたオーストリア・ハンガリー帝国というのがあったが、いろんな民族が独立したあと、オーストリアだけになってしまった。ソ連も最後は、ただのロシア共和国になってしまふぞ。  
●それもやむをえない、人びとが選んだら、そしてそれが人びとの幸福につながるなら、ゴルバチョフはそこまで、覚悟を決めたみたいだ。急進派のエリツィンが次の大統領に選ばれるなら、それもいい。ただそれまでの5年間、いやたどろろの間でも、自分が大統領としてペレストロイカが根づくのを見守りたい……。  
●共産党独裁とソ連は、同時に誕生した。その両方、いま蘇を引こうというゴルバチョフは、裏返しのレーニンなのだ。日本もこの際、北方領土を返してもらおう、なんてケチなことばかり考えていないで、ソ連の人びとのため何かできることはないか、知恵をしぼるべきだろう。



# とうとうベルリンの壁も崩れて 蘇る不死鳥ドイツが世界をリードする

文橋爪大三郎

ドイツといえば、科学の国。アインシュタインが「相対性理論」を発表して、世界をアッとさせたのは一九〇五年。彼はドイツの科学者である。そういえば、X線のレントゲン博士も、結核菌を発見したコッホ博士も、量子力学のプランク博士も、V2号ロケットのフォン・ブrawn博士も、みんなドイツの学者たちである。

二、世紀の前半、ドイツの科学技術は世界のトップレベルだった。一九三三年までのノーベル賞獲得数(文学・平和賞を除く)は断トツ一位の三十四。ダイムラー・ベンツやシーメンス、クルップなど、品質のよい工業製品を作る大企業も、国内にひしめいていた。

こんなドイツが、どうして何十年も、ベルリンの壁で東西に分断させられていたのだろうか。

ドイツ人は几帳面で働き者、集団規律もよく守る。戦争にもメカにもモロ強い。ほつておくと、主導権を奪われてしまうと、周りの民族に相対視されている。

ドイツは水田間、沢山の小国(領邦)に分かれて、発展が遅れていた。それをやまと統一、ドイツ帝国を成立させたのが、プロイセンの宰相ビスマルク(1815)。余勢を駆ってバルカン半島に勢力をのびせるとしたら、第一次世界大戦(1914)が起ってしまった。

なぜヒトラーが登場したのか。この戦争、人類が有史以来使ったと同じ量の火薬をいちどに使ったと言われるほどすさまじい戦争だった。英、仏、ロシアを敵にまわしたドイツは、ついに屈辱、屈辱的なヴェルサイユ条約に調印する。

この条約で、ドイツは領土をかなり削られた。おまけに巨額の賠償金を課せられる。イギリスの代表ケイプスは、無茶だと反対したが、大勢に押し切られてしまう。おかげでドイツ経済は大打撃を受け、不満の声が渦巻いた。追い打ちをかけるように、大恐慌(1929)がドイツを直撃、街々は大雪で覆われて、そこに暴徒が横行した

のが、アドルフ・ヒトラーを先頭とするナチスである。ナチスは、ならず者を集めて「突撃隊」をつくった。これが暴れ回って反対党を蹴ちらし、総選挙(1933)で第一党に躍進。ヒトラーも全額的首相に就任した。

ヒトラーがまず手掛けたのは、景気対策の土木事業。アウトバーン(高速道路)をばんばん建設、再軍備もすすめた。景気が上向いてたちまち失業者がいなくなつた。ケインズ政策(公共事業で景気をよくする)に、世界で最初に成功したのは彼である。

ナチスは正式には「国家社会主義ドイツ労働者党」という。週末には海水浴、ワンダーフォーゲルと、労働者の人気とりもする。ベルリン・オリンピック(1936)も大成功。ドイツ人はようやく自信を取り戻した。

盛り返した国力と軍備を背景に、ヒトラーは外国を脅して、「もともとのドイツ領」をつぎつぎ奪い返した。ドイツ人は拍手喝采、ここで引退してならヒトラーは、偉大な政治家といふことになっていったかもしれない。

だがすぐ、ナチスは正体を現す。スターリンのソ連と示し合わせ、一九三九年九月、突然ポーランドを侵略。驚いた英仏がドイツに宣戦布告すると、得意の電撃作戦でフランスを降伏させてしまう。ヨーロッパの大部分がたちまちドイツの手に落ちた。

でも、調子に乗ったヒトラーが、ソ連に攻めこんで手こずっている間に、気がついたら形勢が逆転、次第に敗色が濃くなる。一九四五年にはヒトラーが自殺、ドイツも全面降伏した。

テヘン全線崩壊のかけひき。それに先立一九四三年、テヘランで米英ソの三巨頭が会談した。連合軍はここに上陸すべきか。チャーチルはバルカン半島を提案したが、お人好しのルーズベルトがホルマンデー(フランス)上陸をOKしてしまふ。これこそスターリンの思いつき、ソ連は東ヨーロッパ諸国を解放し、ヤサヤと支配下に置きめた。東欧が分裂してしまおう。いつわらざる本音である。

でもおかげで、ヨーロッパは鉄のカーテンでまっふたつ、かつての繁華はいまもいず。その隙をついて、日本が経済大国のしあがってくる。これはまずいと、ヨーロッパはEC統合を進めることにした。

その穴先が悪いが、東欧の民主化である。東西ドイツの統一も、一挙に話がまとまった。これでドイツの国力は、ぐんと上向きになる。それにつられて、ヨーロッパ全体が活気づくだろう。そこを見越して世界中から資金が殺到、ドイツブームに沸いてい

る。あべこべに日本からは資金が流出、トリプル安になっている。ドイツ統一のあと、世界はどっちに進むか。東西ドイツ全体で、ドイツは昔みたいに大きくなる。おまけに、ここ十年ぐらいは、かつての日本みたいな高度経済成長が期待できる。

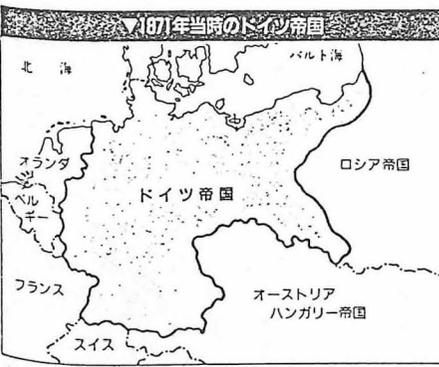
東ドイツをみないな「貧しい」国を背負いこんで、西ドイツは大変だろうという声をきく。でもそれは違う。西ドイツは、資本も技術もあり余っているから、労働力が極端に不足している。統一後はその必要がなくなる。人が出稼ぎに来ている。統一後はその必要がなくなる。しかも相手は同じドイツ人で、教育も高いから、外国人労働者問題の心配がない。行無相通じるとはこのことだ。

もっとも、しばらくの間、東ドイツは大変だろう。この五月、統一のための経済協定がまとまった。懸案の両国マルク交換比率は、1:1。東独国民は貯金通帳を眺めてひと安心。実勢レートだと、東独マルクは西独マルクの数の数分の一だから、これは大サービスである。けれども、この比率だと資金が高すぎて、東独企業の大半は赤字。たちまち倒産するはずだ。百万人以上の失業者が出る、とも言われている。ナチスが出てきた頃みたいに、職を求め人びとが街にあふれそろうだ。

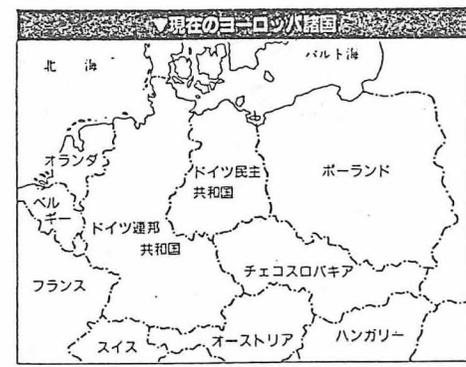
そこで、西ドイツが最新鋭の工場を、東ドイツにじゃんじゃん建てて。公共事業もどんどんやる。輸出にも力を入れる。そうすれば1955年まで、失業者なんかいなくなる。経済も目覚めるように順調になるはずだ。膨大な需要と、投資のチャンスが降って湧いたわけで、西ドイツにもおいしい話。しかもドイツは信用があるから、世界中からいくらでも資金が借りられる。

こうしてドイツが好況になれば、フランスやイギリスも、おぼろげに景気がよくなる。東欧諸国も、東ドイツの真似をして成長できるかも。そして、ソ連、ソ連がベルリンの壁を崩した本音のねらいは、自分もヨーロッパに入れてもらいたい、ということなのだ。

ドイツはNATOにとどまり、間違っても核武装なんかしてはいけない。こうしてヨーロッパに平和と安定が訪れば、アメリカだって軍備の負担がなすむ。平和で豊かなドイツが現れることは、世界中の国から歓迎されている。日本もドイツを見習って、アジアや世界の国に喜んでもらえるよう行動していこう。



1871年当時のドイツ帝国



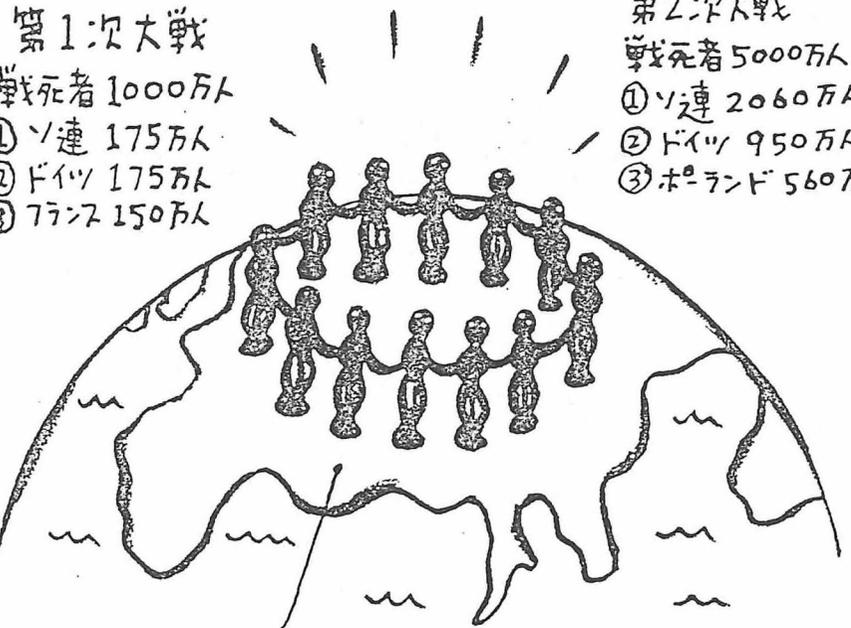
現在のヨーロッパ諸国



第1次大戦  
戦死者1000万人  
①ソ連 175万人  
②ドイツ 175万人  
③フランス 150万人



第2次大戦  
戦死者5000万人  
①ソ連 2060万人  
②ドイツ 950万人  
③オランダ 560万人



EUROPE

EC=ヨーロッパ共同体(European Community)の加盟国は、仏、西独、伊、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク、英、アイルランド、デンマーク、ギリシャ、スペイン、ポルトガルの12か国。  
EC域内の統合市場の実現で、国境をこえたひとつのヨーロッパ社会へまた1歩近づくと。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 専攻は社会学、「冒険としての社会学」(毎日新聞社)などの著者。今年6月発売の、岩波「現代哲学の冒険」第4巻に「性愛のポリティクス」が載っている。

もともと、しばらくの間、東ドイツは大変だろう。この五月、統一のための経済協定がまとまった。懸案の両国マルク交換比率は、1:1。東独国民は貯金通帳を眺めてひと安心。実勢レートだと、東独マルクは西独マルクの数の数分の一だから、これは大サービスである。けれども、この比率だと資金が高すぎて、東独企業の大半は赤字。たちまち倒産するはずだ。百万人以上の失業者が出る、とも言われている。ナチスが出てきた頃みたいに、職を求め人びとが街にあふれそろうだ。

そこで、西ドイツが最新鋭の工場を、東ドイツにじゃんじゃん建てて。公共事業もどんどんやる。輸出にも力を入れる。そうすれば1955年まで、失業者なんかいなくなる。経済も目覚めるように順調になるはずだ。膨大な需要と、投資のチャンスが降って湧いたわけで、西ドイツにもおいしい話。しかもドイツは信用があるから、世界中からいくらでも資金が借りられる。

こうしてドイツが好況になれば、フランスやイギリスも、おぼろげに景気がよくなる。東欧諸国も、東ドイツの真似をして成長できるかも。そして、ソ連、ソ連がベルリンの壁を崩した本音のねらいは、自分もヨーロッパに入れてもらいたい、ということなのだ。

ドイツはNATOにとどまり、間違っても核武装なんかしてはいけない。こうしてヨーロッパに平和と安定が訪れば、アメリカだって軍備の負担がなすむ。平和で豊かなドイツが現れることは、世界中の国から歓迎されている。日本もドイツを見習って、アジアや世界の国に喜んでもらえるよう行動していこう。

もともと、しばらくの間、東ドイツは大変だろう。この五月、統一のための経済協定がまとまった。懸案の両国マルク交換比率は、1:1。東独国民は貯金通帳を眺めてひと安心。実勢レートだと、東独マルクは西独マルクの数の数分の一だから、これは大サービスである。けれども、この比率だと資金が高すぎて、東独企業の大半は赤字。たちまち倒産するはずだ。百万人以上の失業者が出る、とも言われている。ナチスが出てきた頃みたいに、職を求め人びとが街にあふれそろうだ。



# 男も女も結婚難、あせってもダメ いい男性の見つけ方、教えます

文・橋爪大三郎

「ル・クル」第2巻第9号 pp.162-163  
学習研究社 (1990年9月号)

3月5日、マリコ・ショックが、日本中を駆けめぐった。作家の林真理子さん(35)が、婚約を発表したのだ。「ルンルンを買ってお家に帰ろう」で読者の心を掴んで以来、林さんは、若い女性のオビエノン・リーダー。しかも、「結婚したい」と率直な本音を隠さない。とうとうお見合いで、ハンサムな、エリート技術師東郷さん(40)を射止めた。5月18日には念願の挙式、夢にまで見た逆転満員ホームランだ。上野千鶴子さんも、かつていた「三五歳過ぎた(結婚経験のない)女性が将来結婚することば、ほほあり得ない」って、それを真事にはねかえしたのだから立派。私もそれに倣うと、勇気づけられた女性が何万人いたことだろう。

仕事を続けたい。でも結婚はしたい。働く女性なら誰でも抱えるこの悩みを、今回は一緒に考えよう。

●「男あまり」はウソか本当か

結婚といっても、相手がいなければ話にならない。ところが、周りを見回しても、いい男がいなんだなあ。独身の〇しに質問すると、たいがい「職場にこれという男性がいなくて」という返事がかえってくる。それにしては、恋愛結婚の約半分が職場結婚というデータもあるのだが、ふつうに働いている限り、出逢いのチャンスが少ないのは確か。

でも男性だって、悩みは同じだ。いや、もっと深刻かもしれない。「男あまりの結婚難」と言っではなにか。

アルトマン「結婚白書」の一九八八年版が「適齢期の未婚女性：は約55万人が余剰」というショッキングな数字を抱けた。これが、結婚できないであふれた大変という男性の側の危機感をおおりに立てた。

計算の仕方にもよるけれど、確かに「男あまり」の傾向はある。もともと男子のほうが少し多く生まれるうえに、女性のほうが平均2・6歳早く結婚する。だから単純に25〜34歳の未婚男女の人数を比べてみると、ほぼ2・1、男性が二〇万人も多くなる。

たらない。せいたくを言っているつもりはないんだけど、どうしてかしら。

この年代の女性は、世の中を知っている、男性を見る目も肥えている。だから、ちよつとどうかと思う男性は迷わずパスする。それに、結婚したとたん、収入も自由もなくなりそう、二の足を踏んでしまいがち。万が一理解があつて、仕事も続けたいと言ってくれて、性格や趣味もびつたりのヒトがいるといいのだが、ところが、せめてその半分程度の理解ある男性すら、なかなか見つからないのが実情だ。

●男女差の大きい職業

20代後半の女性の、相手は順当ならだいたい30歳少し過ぎの男性。だが彼らの大部分は、世の中の変化をわかっている。たいそう保守的な女性観を持っている。

ところが、そんなに「男あまり」じゃない、というデータもある。たとえば20〜24歳の年齢層の未婚男女では、一九七〇年頃のほうがずっと男性過剰だった。年齢差を3歳つけ、女性20〜24歳、男性23〜27歳で比べると、最近はずっと、あべこべに女性のほうが25万人も多くなっている。

「適齢期」の問題もある。女性の結婚は、25歳前後の数年前に集中している。26〜29歳の独身〇しへのアンケートでは、同性の友人が結婚すると「あせる」が43%、うれしい」の33%より多くて、笑ひこけてない。

いっぽう男性は、20代半ばから30代前半にかけて結婚できればいいや、というんびりバタタン。女性みたいな適齢期の意識はないと言っている。

●「男女性選択の自由アハハ」

人数などでみるかぎり、だから、最近急に結婚難になったわけじゃない。それでも結婚がむずかしく思えるのは、女性をとりまく社会環境ががらりと変化したからだ。戦後すぐは、見合い結婚が主流だった。地元、親の勧めの相手に、二十歳そこそこで嫁入りした。

ところが、70年代あたりを境に、女性の高学歴化、社会進出が進む。いっぽう、昔ながらの仲人おぼろみみたいな地元のネットワークが、影をひそめる。女性も自力で、相手を選択する時代になった。

教育があり仕事をもった女性は、どんどん結婚難になっている。初婚の平均年齢が25・8歳、世界で一二を争う高さだ。収入も増え、男性を見る目も肥えて、何かなんでも結婚ということにならなくなった。「オールド・ミス」も死語になって、いまは「シングル」という。

ただ、ほとんどの女性は、いくらか仕事で面白くても、「いい人がいた」といつかは結婚したいナ、と思っている。結婚する割合が高いのも、日本の特徴だ。

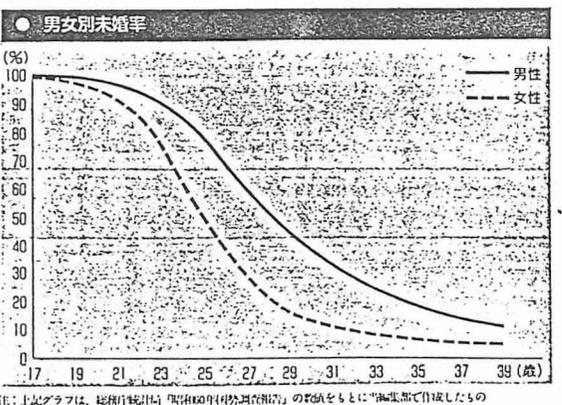
●「いい男」とはどんな男性か

アッシー君、ミツク君、キープ君と、目的別に男性を

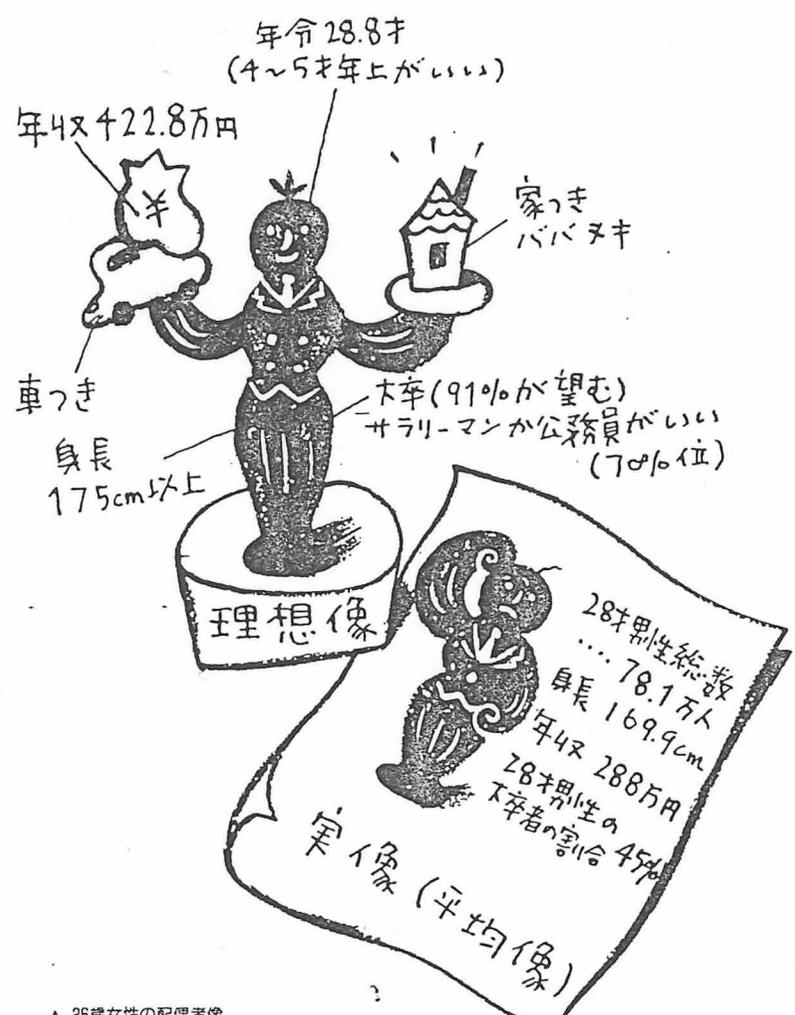
まずこの年代の男性は、とっても忙しい。だから地味な主婦ですんなり家庭に収まり、みそ汁をつくって待っているやさしいお母さん、みないな女性を求めてしまつ、いまだこんな女性がいたら、お目にかかりたい。

●30〜34歳の男性の未婚率は、このところ急上昇、なんと30%に近い。だから、これから結婚しようという読者の皆さんには、宝の山のはずである。

この年代の男性は、青年実業家とか、医師、弁護士みたいな連中は、20代後半を飛び越して、しこのうらさきことを言わないもつと若いギャルを選ぶ割合が多い。お嬢さまやボディコン娘が選りどり見どり、彼らは、肩書や年収にめっぽう弱いのだ。



注：上記グラフは、総務省統計局「国民生活基礎調査」のデータをもとに作成したものです。



▲ 26歳女性の配偶者像  
注：理想像の数字は、(社)民間調査及び「アルトマン結婚白書」による資料をもとに作成している。実像の数字については「結婚の平均外見調査報告」(総務省)、「恋愛実況調査」(学研)、「結婚統計からみた結婚意向の実態」(同前掲)などの調査を参照した。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。著書に「冒険としての社会科学」(毎日新聞社)など。……先ごろ、執筆アシスタントなるものを募集しました。15名の女性と面接しました。皆さんの前向きな生き方に感動。そして、企業は女性の力を引き出すのがなんて下手くそ、と実感しました。

つづまにこの年代には、いままでの女性に敬遠されがちなタイプ男性がけっこう売れ残っている。農家の長男だから、学歴が高くない、仕事が地味だから、……と気の毒な理由で結婚を心待ちにしている人ひとも多い。

さらに、少々難あり組もまじっている。別離れできないマザコン男性、ホモの男性、オタク族、……。初対面だとなかなか判らない場合もあるから、ご用心。あとは、チャンスはなかった男性たち。ディスコにいかないと試験管とにらめっこしていた、みないな堅物タイプだ。当然、世間のことには疎い。こういう男性の面白味はわかるまでには、よほどの忍耐が必要である。

●男性は、フラれるのに慣れていても、選ばれるのは慣れない。だから、目を白黒させている。

●そこで最近、女性に好かれた男性に要身しよう」と「花婿スクール」があらちで開業している。中身をのぞいてみると、エライ先生の講義が始まって、第一印象をよくする法、お見合い必勝術、など、涙ぐましい努力が目につく。やっやっ男も努力し始めた。

●それでも女性に相手にしてもらえない男性たちは、海外に目を向けるしかない。農村から始まった嫁不足は、都会でも慢性化、フィリピン花嫁などを紹介する相談所の看板も、よくみかけるようになった。

●いまからでも間に合う、傾向と対策

●そういう男性がいるいっぽう、女性側の選択も一部に集中、希望どおりの結婚ができる女性数は少ない。これをかいくるには、他人と違った、自分だけの価値観をしっかりと持つ。これが決め手だ。そうすれば、ほかの女性の目に石炭でも、私にはダイヤモンド、という揺り出し物の男性を必ず発見できるはずである。

●20代後半のあなたなら、こういう作戦もいい。まず、年下の男性にも目を向けよう。彼らは同年代の女の子の気まぐれにふり回され、いい加減うんざりしている。そんなとき、あなたの大人の魅力(十経済力)に、コロリと参るかもしれない。

●林真理子さんの真似をして、40歳近辺の男性も悪くない。さもなくば同年代の、引つ込み漁家の男性を、こつちから口説いてしまおう。あと、自分も相手に選ばれるのだから、日々自分をみがくことをお忘れなく。

●どうしても結婚しないと、という揺りはケガのもと。そして、年齢のこともしばらく忘れよう。そうすれば、あなたには、ぐんとチャンスが広がります。

# 38度線もなくなつちやうの？ どうなる朝鮮半島、大胆予測！

文・橋爪大三郎

◆ 金賢姫。またの名を、マ・ユ・シ。彼女はいまソウルで、反省の日々を送っている。87年11月、115人の乗客乗員とともに大韓航空機が消息を断つたあと、金賢姫は逮捕された。そして、北朝鮮(朝鮮民主主義人民共和国)の工作員(スパイ)だと自白した。韓国側の発表によると、彼女らの仕掛けた爆弾で、同機は一時のうちにバラバラになったという。いったいどうして、こんな事件が起こったのか。知られざる韓国、朝鮮民族の悲劇を、今日は考えてみよう。

◆ 分断国家の苦しみ  
北緯38度線。この一本の線が半世紀近く、一つの民族を南北にひき裂いている。

◆ 第二次世界大戦で日本が敗れると、この38度線を境に、米ソ両国の軍隊が朝鮮半島を占領した。両国は、それぞれ息のかかった金日成、李承晩の政権を後押しする。一九四八年には、めいめい独立を宣言、ドイツみたいな分裂国家ができてしまった。

◆ 忘れてならないのが、日本にいた韓国・朝鮮の人々である。とぼつちりで知られず、おまけに祖国も分裂してしまい、在日本朝鮮人総連合会(総連)、在日本大韓民国居民団(民団)という二つの組織に分かれて、対立するようになった。

◆ 北は工業国、南は農業国……？  
さて、朝鮮戦争のあと、38度線(軍事休戦ライン)の北は社会主義体制、南は自由主義体制のもと、国づくりにもついに差が広がった。

◆ 朝鮮半島は資源に恵まれている。北は山が深くて水力発電に適しており、電力が豊富。無煙炭などの地下資源も豊富だ。ところが、開ドル市場で外貨をかき集め、本国に送金するのが仕事だったというから情ない。

◆ こういう状態になったら、「主体思想」「主体技術」はちよつとお預け、外国の技術や資本をとり入れて、経済の立て直しをはかるのが本当だ。だがそれだと、金日成主席のメンツがまるつぶれ。そこで、国民を叱咤激励し、海軍戦術で乗り切ろうとしている。そして、主体思想塔とか百九階建てのホテルとか、韓国に反抗してはかたかい建造物を見て、資源をむだづかいしている。息子の金正日氏が後継者になったところをみると、この体制をずっと続けるつもりらしい。権力の「世襲」?! と、連年も

もある。日本が建設した水電ダムや工場なども、北に立地していた。いつか南は投資地帯。水田が青々と広がっている。北は工業、南は農業。学校ではそう習った。でも最近、韓国工業力が大したもの。造船でも、自動車でも、電気製品でも、うかうかしてはいられない。日本よりものを作る。ソウルだって、すっかり近代的な都市に生まれ変わった。政治の面でも、李承晩-朴正熙-金正煥と続いた独裁政権の時代が終わり、民主的な選挙で選ばれた盧泰愚政権が誕生している。ソウル・オリンピックも成功。韓国は先進国仲間入りをした。

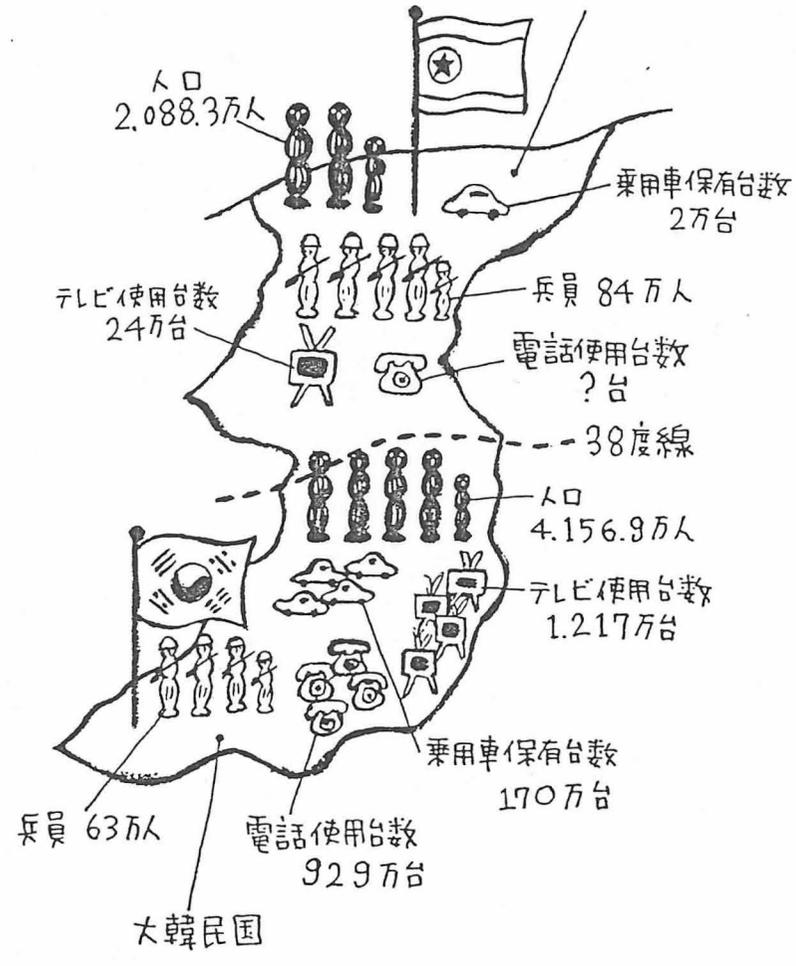
◆ じゃあ、北朝鮮はどうか。外国に門戸を開きしている。詳しいことはわからないが、あまり頼りないらしい。いや、かなりピンチという話もある。

◆ 朝鮮労働党の金日成主席は、政権につくと、まっすぐスターリン型の計画経済を採用した。そして、党内で独裁的な地位を固めていく。毛沢東思想の向こうをきいた「主体思想(マルクス主義を朝鮮に合わせて発展させた「独自の」な思想)」を唱え、ソ連とも中国とも距離を置いた独自の社会主義路線を行く。その結果、農業も工業も大発展。「世界中がうらやむ楽園」になった、ということになっている。

◆ ところが、北朝鮮に里帰りした朝鮮総連の人びとは、みんな、祖国のあまりの貧しさにびびりつつ帰って行く。北朝鮮の農業も工業も、政府の発表とららはらに、どんだ底の状態らしい。たとえば、

● 山の水を切り倒し、田中に段々畑をこしらえたため、毎年のように洪水が発生。大きな被害が出ている。  
● 肥料も技術も足りない。米などの主食が不作。人びとはトウモロコシのオカユで飢えをしのいでいる。  
● 石油化学工業がないから、プラスチックもない。  
● コークスが作れないので、純度の高い鉄や、合金が作れない。釘や針金や、いろいろな機械も作れない。

## 朝鮮民主主義人民共和国



▲ 大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国の人口他との対比  
注：上記「大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国の人口他との対比」は二宮書店「世界国要覧1990年版」により、(ただし、朝鮮民主主義人民共和国の車及び電話の使用台数については、韓国国土院一院の資料中の推定値を引用している)当編集部で作成したイラストグラフである。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。はじめての構造主義(講談社)冒険としての社会科学(毎日新聞社)などの著書がある。……去年は中国に関心が集まりましたが、朝鮮半島にも間もなく大きな動きがあるはず。日本人はアジアのことを、知らなすぎます。

### 大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国の歴代政権年表

1945年	金日成、北朝鮮民主主義人民共和国臨時政権に就任	李承晩、大韓民国臨時政府に就任
1948年	大韓民国成立 李承晩大統領就任	朝鮮民主主義人民共和国成立 金日成首相就任
1950年	アサヒ通信 李承晩大統領就任、独裁政権樹立	
1951年	5.16軍事政変 朴正熙軍事政権樹立	
1952年	朴正熙大統領就任	
1953年	朴正熙大統領就任	
1959年	金正日大統領就任	金日成の子、金正日、政治体制を刷新、異議、軍事多量に導入された。
1962年	金正日大統領就任	

注：大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国の歴代政権とそれにかかわる主要な出来事を中心として記載している。また、右の表の記載内容は一定でなく、時系列順に列記してあるにすぎません。

は、真実を知っているはずだ。そして、このままでは北朝鮮の将来が危ない、危機感をいだいているはずだ。その危機感に近い打ちをかける出来事があった。韓国の盧泰愚大統領が、ゴルバチョフ大統領と会談したのだ。韓国とソ連の国交樹立も間近。プッシュ大統領もこれを強引に後押ししている。

◆ これは、何を意味するか。北朝鮮と韓国の戦いがおこつても、もうソ連は助けてくれない、ということだ。中国だって同じ。北朝鮮が自棄になって暴れたら、自滅である。

◆ おまけに韓国は、8月の南北の「自由貿易を促進案」追いつめられた。北朝鮮はいよいよ追いつめられた。

◆ もうこうなれば、郭小平みたいな経済開放政策で、少しずつ国力を回復していくしかない。そこで金日成主席も、最近アメリカとの関係改善をはかっている。

◆ ところが、経済開放に踏み切るには、いままでの考え方を百八十度変えないといけない。北朝鮮が「楽園」ではなくて、ただの後進国で、と認める。国民はショックで、大騒ぎになるだろう。こういう「まわれ、石は、金日成主席にしかできない。やるしかないのだ」だけれども、残された時間は少ない。

◆ これをやらないでズクズクしていると、富強革命権力者の側近が権力を奪いとる。ここが起るかもしれない。金日成主席は今、78歳、病気がついたり、死んだらりしたときが危ない。金正日氏にバトンタッチする政変を、横取りする動きが必ず現れる。

◆ こうなれば、混乱は必至。ソウル・オリンピックを妨害しよう、大韓航空機の爆破を命じたぐらいだから、何がとび出すかわからない。流血の事態が起こるのではないかと、ソ連とアメリカも、中国も、心配している。鍵を握るのは、軍部だろう。ソ連とのパイプを活かし、金日成に代わって開放路線を推しすすめることのできる人物をつつける。そして米ソでバックアップしていく。そんな相談が舞台裏に進んでいくかもしれない。

◆ とまあ、なるべくならに、北朝鮮が国際社会にとけこんでいくというのだが、日本も、この流れをよく理解したうえで、「ミソ」という時には、きつなく経済援助ができるよう、準備をしておくべきだろう。

◆ 今後も鮮卑助が予想されるアジア情勢。日本の責任も重い。そんな、知らなかつた、ではすみません。

# ゴルバチョフ大統領、ご安心ください 北方領土問題は、これで解決です

文・橋爪大二郎

「ジャン、ジャン、ジャトーガイモ、サツマイモツ（軍艦マーチのメロディー）……」  
「返せ、北方領土！」石炭の宣伝カーが、けたたましいボリュームで駆け抜けていく。こういうのは迷惑だけど、北方領土返還は国民の悲願。国会では何回も、全会一致の決議をしている。

その割りにさっぱり、北方領土は返って来ない。でも来年は、ゴルバチョフ大統領の訪日だ。この機会を逃すと、各方面で期待が高まっている。  
何十年も進展がなかったのは、主張がまったく平行線だから。まず、双方の言い分をフォローしておく。  
日本は、北方四島（歯舞諸島、色丹島、国後島、択捉島）を「固有の領土」と主張。ソ連にすぐ返せ、と要求している。いっぽうソ連は、これらの島々をロシア共相国の一部であるとし、「領土問題は解決済み」と、長いこと交渉に応じなかった。

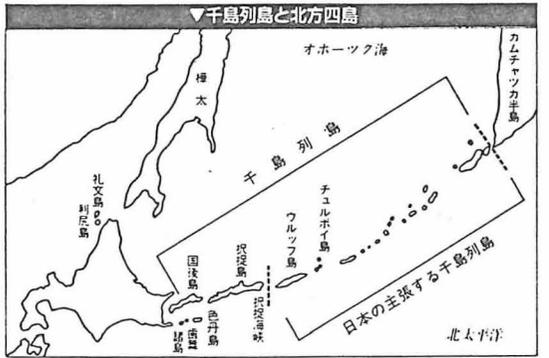
主張がこんなに違うのでは、なまじのことで「解決」は無理。どっちの主張にどんな根拠があるのか、歴史をさかのぼって検証してみよう。

●北方領土問題の歴史をふり返る。  
北海道から千島、樺太にかけては、もともとアイヌ民族が住んでいた。そこへ毛皮を求めて、ロシア人がやって来て、千島列島を探索。あちこちに定住した。日本では松前藩が、国後、択捉を勢力下に収めた。そして、鎖国も解けた一八五五年に、幕府は「日露通交条約」を結ぶ。この条約で、国後、択捉は日本領、この千島列島はロシア領、と定められた（歯舞諸島、色丹島は北海道の一部で、当然日本領である）。  
樺太（サハリン島）は、日本領かロシア領か話し合いがつかなかった。どちらでもない「混住の地」昔はそんな奇妙なもがあった。ということになった。でもロシアはあとで、どうしても樺太が欲しいと、言い出し、相談の結果、千島と交換することになった。これが一八七五

年の「樺太千島交換条約」である。この結果、樺太はロシア領、千島列島は全部日本領ということになった。  
このあと、日本とロシアの関係は悪化していく。一九〇四年に日露戦争が勃発。翌年のポーツダム条約で、日本は樺太の南半分を手に入れた。すっかり軍国主義になった日本は、ロシア革命に干渉してシベリアに出兵したり、国境で挑発（フモンハン事件）をしかけたりした。  
●日本は、千島を放棄した  
戦争が終わった。平和条約を結ぶ。その平和条約では、あともめないよう。国境をはっきり決めろ。これが、国際法の常識なので、頭に入れておこう。  
一九四五年、日本はポーツダム宣言を受諾。連合国に無条件降伏した。ポーツダム宣言には、「日本国ノ主権ハ、本州、北海道、九州及四国並びニ吾等ノ決定スル諸小島ニ局限セラルベシ」と書かれている。だから、本土とその周りの小さな島々だけが、日本領ということになった。そして結ばれたのが、サンフランシスコ条約（一九五一年）だ。日本国は、千島列島並びに……樺太の一部……に對するすべての権利……を放棄する」とある。つまり日本は、今までの侵略的な態度を反省し、千島列島はもう要りません、と宣言したのだ。これは、世界中の国々に対する約束だから、守らないわけにはいかない。

ところがこのサンフランシスコ平和条約に、ソ連は調印しなかった。なぜか土壇場でしぶったのだ。  
ソ連は終戦直前の八月八日、アメリカなど連合国の要請をうけ、日ソ中立条約を破棄して日本に宣戦を布告。そして、国後、択捉など千島列島全部と、歯舞諸島、色丹島を占領した。  
米英はこれを、黙認した。なぜかというところ、マルタ協定で、「千島列島はソ連に引き渡される」と決まっていたから。連合国は「領土不拡大」その国のものもどとの領土と認めない）を宣言していたのに、これはすこし変だが、ソ連を参戦させる見かえりとして仕方ない。

●二島返還と、四島返還、どこがちがう  
とにかく千島列島は、日本のものでなくなった。でも、歯舞、色丹は違う。この二島は、もともと北海道の一部で、千島列島じゃないから、これは、サンフランシスコ条約を結ぶ際、アメリカを押し確認している。  
実は歯舞、色丹の二島、もうちょっとで返つてくることだった。  
一九五五年、ソ連と平和条約を結ぶため、鳩山内閣は松本大権を交渉にあたらせた。するとソ連は、歯舞、色丹の二島を返還してもいいという譲歩案を示した。松本大権は喜んだが、外務省は、それなら国後、択捉も取れるかもしれない、四島返還に要求をエスカレート、話し合いはすっぱりこじれてしまう。結局、平和条約は結



▼千島列島と北方四島  
注：上記地図は、歯舞諸島と色丹島、また、参考として、和歌山県北方領土問題を考える会が作成した。外務省大田官報部が作成した北方領土問題の経緯（日本領土）東京大学出版会1982年



## 1792 in Japan

▲1792年ロシア人、ラクスマンが初めて日本に上陸

橋爪大二郎(はしづめ たいさぶろう) 社会学者。「はじめての構造主義」(講談社現代新書)、「冒険としての社会科学」(毎日新聞社)などの著書がある。……サンフランシスコ条約は、戦後の日本を国際社会に受け入れた条約です。北方領土を考えると、この条約が基本になります。

●四島返還論に根拠はあるか  
日本政府は、そのあと、すつと四島返還を要求している。歯舞、色丹はともかく、国後、択捉は、どうして日本の領土だと主張するのだろうか。  
●五世返せと言っただけじゃだめ  
歯舞、色丹の二島だけなら、ソ連はすぐ返すだろう。  
でも四島となると、ウンと、言いにくい。ソ連はあちこちで国境問題を抱えていて、日本にだけ妙な譲歩はできないからだ。  
「粘り強く」要求していれば、そのうち北方領土が返ってくる、というのが日本政府の態度。でも見方を変えてみる。「もとは自分のものだから、返してくれ」という感情論では通らない。相手の主張や立場も考え、国際的にも通用する解決策を探らないと、何年たってもこのまんまである。買収はいい、という声もあるが、思い上がりもはなはだしい。  
●北方領土を、自由の島に  
そこで提案だが、いっそ兩國の主張を足して、で割り、国後、択捉の両島を、日ソどちらでもない「混住の地」にしたらどうだろうか。兩國は互いの主権を認めあひつたり自分の主権を放棄し、協力して両島の行政に当たるのである。もちろん、二島は非武装地帯とし、せひアメリカも巻き込んで、国際空港を建設してもらおう。日本人もソ連人も、ビザなしで行き来できる、自由の島だ。  
国後、択捉は、もともと人口一万三千人の島。大した産業も、経済的価値もない。こんな島を依拠地になつて争い合うより、この際、南極みたいな、人類みんなが利用できる場所にする。関税をなしにすれば、香港みたいに大発展するかもしれない。そうやって、G・N・P世界第二位、三位の日ソ兩國が友好の絆を固めれば、どれだ世界にプラスになるだろう。  
ゴルバチョフ大統領閣下、ぜひ真剣にお考え下さい。

イラスト：橋爪大二郎

# 株価は暴落、原油は高騰 深まる湾岸危機、戦争の瀬戸際へ

文・橋爪大三郎

「いやな奴が入ってくる……メソポタミアを支配する暴君……おそろるべきや、見通しは真暗」アラビアの海で大艦隊が待機しよう……いつも言ってきたことになって、いるノストラダムスの大予言が、またもや的中。フセイン大統領の命令で、百戦錬磨のイラク軍が八月二日、瞬く間に隣国クウェートを陥れた。

イラクのサダム・フセイン大統領は、ネフカドネサル二世（古代バビロンの繁栄を築いた大王）の再来を自称する。国内には独裁体制をし、五千名の戦車部隊と百万の軍隊を擁している。でも8年に及んだイラン・イラク戦争で、経済は破綻寸前。だから石油収入で潤うクウェートは、餌えた狼の前の羊みたいなものだった。

だが、勝手にその国を占領したらいけない。れっきとした国際法違反だ。これを許してなるものか。アメリカ、イギリスをはじめ、世界中が怒りに燃えた。フセイン大統領の暴挙だ。

この中でおこことになるまいと、イラクは高をくくっていた面がある。イラン・イラク戦争では、クウェートをはじめ、多国籍軍が展開している。経済封鎖でイラクからの石油輸出はゼロ。食料や生活物資の輸入もままならず、文字通り災のネズミだ。

興すのがわらわらである。オイル・ショック（第一次）が世界をみまひ、オイル・タラーが一世を風靡した。だが結局、アラブの近代化はうまくいかなかった。抜けがけで増産に走る国が現れ、値崩れしたのも一因である。イラン革命が起って正政が倒れると、湾岸諸国は自分たちの政権が心配になった。その心配をえて、イラクはイランに戦争を仕掛ける（第二次オイル・ショック）。そして汎出の犠牲を出したのに、金持の湾岸諸国は最近冷たいではないかと、イラクは恨んでいる。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「仏教の言説戦略」(勁草書房)、「冒険としての社会科学」(毎日新聞社)などの著書がある。……なすすべもなく右往左往。日本のふかいなさに、やりきれない毎日でした。政治家が頼りないなら、われわれがしっかりしなければ。



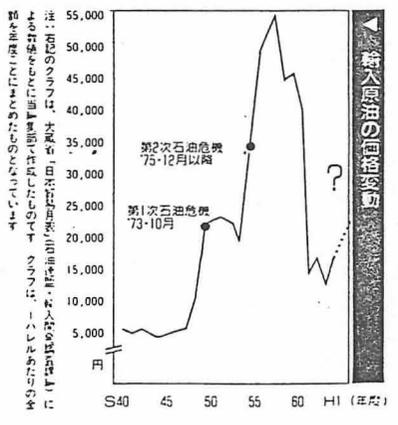
対立、産油国/非産油国の利害の不一致。これらがもつれた複雑な局面に、複雑に絡み合っている。順番にほかをいって、先行きが読めない。

まず理解すべきは、イスラエルとアラブ諸国の、天敵ともいえる険悪な関係だ。イスラエルは、世界をさまよったユダヤ人が、二千年ぶりに建てた赤銅の国家だ。パレスチナの一部は、聖地でユダヤ人に約束されたという土地。第一次世界大戦に協力したお礼に、当時中東一帯を支配していたイギリスから、やっと独立のお墨付きをもらった。ところが、パレスチナの人びとに断りなされたため、話がこじれる。追い立てられたパレスチナ人は難民となって、PLO(パレスチナ解放機構)を結成。アラブ諸国の支援を受けて戦っている。いっぽうイスラエルは、アメリカを後援に、圧倒的な軍力を持つ。アラブ諸国が東になってもかかわらない。過去4回の中東戦争で、イスラエルは一度も負けたことがない。

イスラエルが上層にかけられたエルサレムは、キリスト教の聖地だが、ユダヤ教にとっても神殿のあった大事な場所。おまけにイスラエル教の聖地でもある。この場所をめぐる争い、十字軍の昔から、もめごとが絶えなかった。それでも仲よく暮らしていた時期もあったのに、国家をつくる段になって、対立が抜きさしならなくなった。

イスラエル教も、一枚じやない。イスラエル教という点では、足並みの揃ったアラブ諸国だが、内部にいろいろな対立もかかっている。アラブ世界は、イスラエル教抜きに語れない。7世紀、アラビア半島から興ったイスラム教は、爆発的に世界に広まった。現在、東はフィリピン(ミンダナオ島)から西はモロッコまで、6億人もの人びとが信仰している。最大の宗派はスンニ派(九割の多数派)で、シーア派(イランなど)と対立している。それらがさらに、成律をめぐる争い、いくつもの宗派に分かれている。

イスラム教は、一枚じやない。イスラム教という点では、足並みの揃ったアラブ諸国だが、内部にいろいろな対立もかかっている。アラブ世界は、イスラム教抜きに語れない。7世紀、アラビア半島から興ったイスラム教は、爆発的に世界に広まった。現在、東はフィリピン(ミンダナオ島)から西はモロッコまで、6億人もの人びとが信仰している。最大の宗派はスンニ派(九割の多数派)で、シーア派(イランなど)と対立している。それらがさらに、成律をめぐる争い、いくつもの宗派に分かれている。



イスラム教徒は、コーランの教えに従い、禁酒、毎日の礼拝、断食などの戒律(イスラム法)を守って生活する。法律上のアドバイスを与える法学者(ホメイニ師みたいな人)が、人びとの尊敬を集めている。これを無視して強引に近代化を押し進めると、伝統に揺れという「イスラム原理主義」が出てくることになっている。

それから、中東が世界最大の油田地帯であることも忘れてはいけない。何もなかった砂漠から、いきなり石油が出た。部族の首長や王様たちはたちまち大金持ち。クウェートやアラブ首長国連邦、サウジアラビアみたいに、部族社会の伝統を残したまま独立した砂漠の国々は、石油収入の割りに人口が少ないため、国民所得が高い。同じ産油国でも、イラクやイランはぐんと貧乏。シリアやヨルダンみたいに、石油の出ない国もある。そういう国から見ると、湾岸の産油国がうらやましく思われる。

一九七三年、アラブ産油国を中心とするOPEC(石油輸出機構)が、原油価格を急激に上げた。原油を握りつくす間に、ドルでも多く貯蓄して、近代化を進めるような有力な財閥が現れるとすく、アラブ産油国は大きな単位にまともな国とする。イスラム教の連帯の前には、国境なんて目じゃないのだ。

欧米流の民主主義にとって、国境は神聖なもの、理由もなく乗り越えてはいけない。でも、イスラム教徒は、その感覚が少しちがう。国境なんて、上字軍のときみたいに乗り越えて来た欧米列強が、植民地をこしらえて勝手に線をひいた名残りじゃないか。だから、イラクのフセイン大統領みたいに、腕つよい強いリーダーが現れると、一般国民は、イスラエルや西側の勢力を追いついてほしい、アラブ世界を統一する強大な国家が現れるとつい声援してしまう。

日本は、どうすればいい？  
 日本人は、中東問題が大の苦手。それは、宗教(特にイスラム教)が理解できないせいである。  
 海軍首相は、この八月、トルコ、ヨルダン、エジプトなど中東五ヶ国を訪問するはずだった。でも、イラクのはげで「事情が変わった」からと、ハイ中止。日本が平和に立てるチャンスだったのに、まったく惜しいことをした。日本の政治家が中東やアラブに無知であることをさらけ出して、ほんとに恥ずかしい。

イラクとアメリカは、決めのないまま睨み合いを繰り返している。イラクの武器は、人質と化学兵器。アメリカの武器は、経済封鎖と国際世論。いくらアメリカが強くても、クウェートからイラクを追い出すのは、ちよつと手こずりそう。下手に乗り込むと、イラクは対抗して化学兵器をイスラエルに投下。その返返しに核兵器と、ひつちり時間かけて、兵糧攻めがよい。クウェートのことはゆつくり考えようとして、いまいちばん大切なのは、イラクみたいな腕すくつるやうな、糊りに合わないことをはつきり世界に示すことだろう。その点、ソ連や西側諸国の足並みがいちおう揃ったのは取柄だ。今回の湾岸危機をうまく切り抜けて、米を中心とする世界的な危機管理の枠組みを作れば、第一、第二のイラクは、半分現れないはずだ。

# 風雲急のウルグアイ・ラウンド コメも自由化!? 危うし、日本農業

文・橋爪大三郎

●子供はみんなバナナが好き。ちょっと年上の人に聞くところから、昔はアイスクリームに劣らぬ貴重品だった。でも最近、見向きもされぬ。八百屋の店先でひと山削り、隅っこに小さくなって。  
 それもこれも自由化のせい。量も増え、値段も下がった。輸入のし過ぎでありがたなくなってきた。バナナに限らず、日本は世界中からありつたものの農産物を輸入している。おかげで、自給率は急降。国内でまかなえるのは、ほとんどコメだけという有り様だ。  
 と、そのコメも、輸入の自由化を迫られている。年内にもまるとるガットのウルグアイ・ラウンドで、その約束をさせられそうだ。このままじゃ、日本の農業は全滅だと、農家の人びとは真っ青になっている。  
 ガットは、何を決めるの?

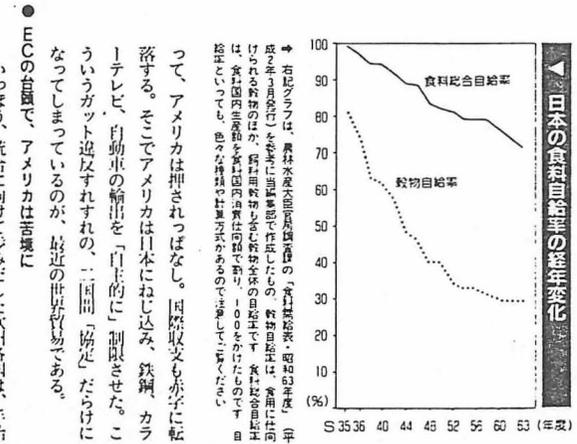
●ここでこのガット、正式には「関税と貿易に関する一般協定」という。その頭文字をとったGATT。簡単に言うと、関税を引き下げ、貿易を活性化するのが役目の国際機関だ。自由貿易の旗振り役である。  
 第二次大戦が終わったあと、人びとは反省していた。自分達の国が被害者ばかり考え、関税を高くしたり、経済をブロック化したりしてはいけない。また戦争になる。そこでアメリカが言い出した。一九四八年に発起したのがガット。国際通貨基金(IMF)や世界銀行も協力して、自由主義経済のもと、世界の結束をはかることになった。日本も一九五五年に加盟している。

●ガットに加盟したら、ガットの協定を守らなければいけない。たとえば、関税を勝手に高くしたり、理由もないに輸入制限をしたり、特定の国だけを優遇したりするのは禁止。そのほか細かい決まりがいっぱいある。関税を下げる場合は、まず適当な国同士が相談(二国間協議)して、それを他の国にも適用する。沢山の国が集まって、その交渉を一度にするのをラウンドという。今回のウルグアイ・ラウンド(三回)として8月開いた。

●アメリカは特別扱いで、するする。  
 と、奇妙なガットには、奇妙なことがいっぱいある。なかでも奇妙なのが、アメリカの特別扱いである。戦後のアメリカは、ヨーロッパや日本や、世界中に戦災復興資金を貸して来た。それによいことに、「わが国は農産物があり余っている。ついでに今後、外国から輸入しないことにするからよろしく」と、アメリカが頼んで来た。ガットの決まりでは、三分の二の国が賛成すれば、特別扱いになる(ウェーバーの取付)。嫌とも言えず、各国はしぶしぶ承認。以来アメリカだけは合法的に輸入制限を続けている。やっぱりこれは、するすい。

●農業問題が、ガットの焦点に  
 当時からアメリカは農産物の輸出大国。慢性的生産過剰で、小麦も牛肉もだぶついていた。それを補助金をつけ、あるいは援助の名目で、ヨーロッパや日本に売りさばってきた。もともとアメリカは、農産物の同様の。その反面アメリカは、世界中の国々に国内市場を開放した。農産物以外なら何でも買います、というわけだ。それが山手裏交渉の繁栄を支えて来た、と語っている。特日本が、そこから受けた恩恵ははかりきれない。  
 50年代、60年代のアメリカは強かったから、貿易を活発にしようと思いをとり、何回も関税の一括引き下げをかけた。特にケネディ・ラウンド(三三)と、東京ラウンド(三三)はこうやって、工業製品の関税なども下げ引き下げる必要もない、低い水準になった。ところがそのあと、日本やドイツの輸出競争力が強ま

●日本のコメは、たしかに厚く保護されている。でもコメ以外の農産物は、ほとんど輸入。アメリカのいいお得意さんだ。日本ほど市場を開いている国も少ないのだ。戦中・戦後の食糧難時代、コメもムギも配給だった。食糧管理制度は、その置き土産である。政府が農家から高めに買入れ、消費者には安く売る。年々米価を上げれば、農家の所得もそこそこと上昇する。まあ、仕組まなかった。ところが、コメが獲れず、減反になった。食糧増産も赤字がかさみ、米価の値上げどころでない。農家も後継者難でお先真っ暗のところへ、今度はアメリカがコメの市場開放を迫ってきた。「コメは日本農業の聖域。一



●ECCの台頭で、アメリカは苦境に  
 いっぽう、統合に向けて歩みだした欧州各国は、手始めにECC(ヨーロッパ経済共同体)を作った。フランス、ドイツなど加盟国の中で、関税を安くして貿易を活発にするのが目的である。これがガット違反の「関税同盟ではないかと、アメリカが文句をつけたがヨーロッパも抵抗。うやむやのまま押し切ってしまった。  
 これをひきこめて一九六七年に発起したECCは、工業製品だけでなく、農産物も含めた市場の一体化を狙っている。そのため工夫されたのが、関税とはひと味違って「可変課税」制度。輸入農産物は国内価格にあわせて割高に、輸出する場合は逆に割安にする。この動き目で農業は立ち直り、輸出競争力が上がった。そのおかげで、アメリカはECC市場から締め出されたばかりか、ほかの輸出先まで奪われてしまった。財政赤字、貿易赤字に苦しむアメリカには、とうとう我慢できない、何とか農産

●コメの自由化、待たなし!  
 アメリカにとって、ECCの農業保護政策は目の上のタココブ。ただ、自分もずっと農業保護をやってきた手前偉そうなことは言えない。でも背に腹はかえられず、この際どの国の保護政策も全部なくそう、と言いつ出した。肉を切らせて骨を切る、大胆な提案である。

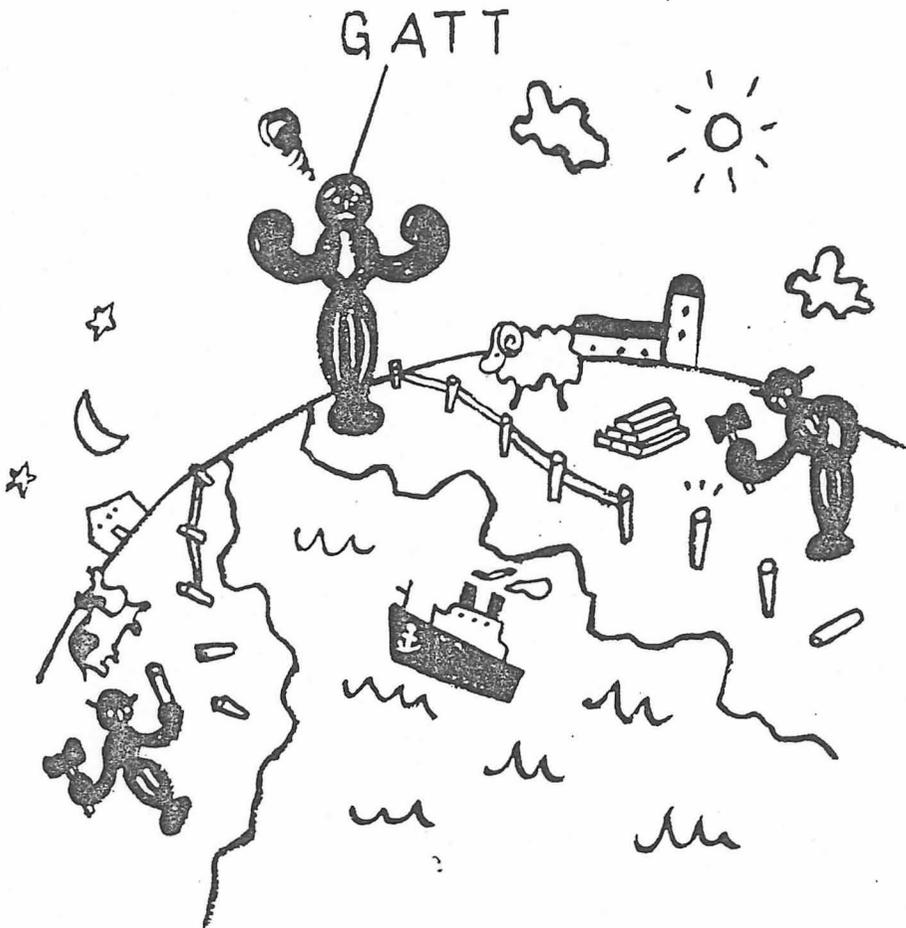
●それは、例外があつてはだめ。だから日本もコメを輸入しろ。とんだとばかりだが、仕方ない。

●日本のコメは、たしかに厚く保護されている。でもコメ以外の農産物は、ほとんど輸入。アメリカのいいお得意さんだ。日本ほど市場を開いている国も少ないのだ。戦中・戦後の食糧難時代、コメもムギも配給だった。食糧管理制度は、その置き土産である。政府が農家から高めに買入れ、消費者には安く売る。年々米価を上げれば、農家の所得もそこそこと上昇する。まあ、仕組まなかった。ところが、コメが獲れず、減反になった。食糧増産も赤字がかさみ、米価の値上げどころでない。農家も後継者難でお先真っ暗のところへ、今度はアメリカがコメの市場開放を迫ってきた。「コメは日本農業の聖域。一

●日本農業に、未来はあるか  
 田舎で、日本の物価は世界一。コメもアメリカで作るより、7倍も高くつく。それならいっそアメリカから輸入したら、と言う都会の消費者も増えてきた。  
 とんでもない、自給率の低さをみる、と反論するのが食糧政策論。イラクも食糧が自給できずに、兵糧攻めに遭つて。少々割高でも国内で生産しようという主張だ。今回アメリカは、こんな提案をしている。まず、輸出補助金その他の非関税障壁を、全部関税に置き換える。たとえば、日本が、コメの輸入を認めると、六百%の関税をかけない。するとアメリカと日本の米の値段が一掃になる。つぎにその関税を、10年のあいだに少しずつ下げていき、最後はゼロ(完全自由化)にしよう。  
 ECCが猛烈に反対しているから、この案が通る見込みは少ない。びくびくして聞いている。むしろ、アメリカとECCが、つりあつて組んでいるので、日本がキヤスタイン・ポッドを握っていることに気がつくべきだ。

●日本としても、目先の農業保護ばかり考え、アメリカの言い分を無視するのは得策でない。国内消費の二、三割の輸入は消化しよう。そして何より農業経営を合理化し、コメの生産コストをせめていまの半分にする。経営規模も拡大する。猫の額みたいな田んぼでは仕方ないから、米価を上げてもらっていいから、やる気のある農家に土地を集める。そこまで努力すれば、消費者も多少くらい割高だつて我慢するはずだ。  
 ただしそれには、ネット時間がかかる。アメリカの10年はせつちかちかするので、せめて15年計画にしよう。  
 アメリカがそれまで待てないなら、ほかの手を考える。日本政府がアメリカを買って、それを第三世界の援助に振り向けるのも一案だ。コメは取量の多いすぐれた穀物だ。コメの味をまず覚えたら、それから作り方を指導するのも、血の通った援助ではなからうか。  
 判で押したように、コメの自由化反対、と叫ぶだけじゃだめ。麻雀の一人勝ちみたいに、国際貿易でまんまん得ばかりしてきた日本である。これまでの繁栄が、他国の犠牲のうえに成り立っていったか? その辺もよく考え、世界の国々と協調しながら発展できる道を探そう。日本がどんな犠牲をどれだけ払つてもかた断度をはずりさせれば、どの国も納得できるうまい解決が、きっとみつかるはずだ。

橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。……山形県の米穀店の娘さんから「減反してるといのに、それでも輸入する必要はあるのですか」と質問いただきました。むむ。日本が工業製品を輸出しない困るように、農産物を輸出しない困る国もあるのです。お互いどう困っているか、まずよく理解しあうことが、解決の糸口になるでしょう。



# パレスチナ問題をいちから考える

文・橋爪大三郎

和平が、それとも戦争か?! 崖っぷちの中東に、世界の耳目が集まっている。この原稿を書いている10月現在(ル・クルの締切りは、発売日より前)も、まだにらみ合いが続いていて、まったく予断を許さない。もしかしたら、この文章が皆さんのお手紙に届くころには、戦争の火が切つて落とされているかもしれない。

戦争になれば、イスラエルが巻きこまれる公算が大きい。平和解決の鍵も、じつはイスラエルにある。それはなぜか。ベルリンとナチスとがもうひとつの紛争地帯、パレスチナについて今日も争っている。

### ●三つの宗教対立

パレスチナ問題の解決がむずかしいのは、この土地をめぐってユダヤ教、キリスト教、イスラム教が長い争いを続けてきた歴史があるからだ。

そこです。この三つの宗教の間接だが、どれも一神教。同じ神から分かれた、親戚のような間柄である。ユダヤ教の神はヤハウェ(エホバ)。キリスト教の神は主。イスラム教の神はアラー。合計三人の神様がいます。と考えると、それなりに大事に考えよう。この三者は同一人物、いや同一神なのだ。キリスト教徒は「聖書」を聖典(神の言葉)として大切にしているが、このうち旧約聖書の部分はユダヤ教からの借り物である。イスラム教徒の聖典は「コーラン」だが、「聖書」もアラーの言葉に違いないとみて、それなりに大事に考えよう。

### ●ユダヤ民族の約束の地

さて、「旧約聖書」によると、昔ユダヤ民族が砂漠をさまよっていたところ、神様が現れて、カナンの地(いまのイスラエルのある辺り)をあげよう、と約束したと

いう。そこでユダヤ民族は、先住民族を追っ払って国家を建設。ダビデ王、ソロモン王の時代には繁栄を極め、エルサレムに立派な神殿もこしらえた。が、その後はじり貧で、バビロンに捕囚されたときは国もなくなってしまう。許されて帰国し、やっと神殿を再建したものの、紀元一世紀、ローマに反抗して敗れ、故国を追われた。以来千年のあいだ、世界を流浪する民族となった。

ユダヤ民族は勤勉なので、どの国でも有力な勢力になるが、やがて煙たがられて追放される、というこの繰り返しの歴史。近代になって各国の民族意識が高まると、ユダヤ民族のあいだにも、心のふるさと、シオンの丘(エルサレムの象徴)に帰って国をつくらう、というシオニズムが起こった。このプランがイギリス、アメリカを動かして建国されたのが、イスラエルだ。

### ●パレスチナにも、国を約束したのに……

ところが問題なのは、その場所に、千年以上におわたってアラブ人(イスラム教徒)が住んでいたことだ。彼らパレスチナ人にとっては、イスラエル建国など殺耳に水。先祖伝来の土地を、ユダヤ人たちに奪われてはたまらない。どれだけ外国で迫害されていたか知らないが、アメリカの後押しでやってくる彼らは、やっぱり植民地主義の侵略者に見えてしまう。

アラブ人は、東はイラクから西はモロッコあたりにかけて住んでいる。第一次大戦の頃まで、オスマン・トルコに支配されていた。トルコが戦争に負けて、解体されてしまおうと、入れ替わりにイギリス、フランスなど列強がどっとうりついてきて、中東一帯をてんで分割。植民地として縄取りを主張した。

植民地を統治する常套手段は、分割統治。つまり内輪もめを焚きつけて喧嘩にしようだ。イスラム教徒にもスンニ派に対するシーア派。そのまた分派のドゥルーズ派。サウジアラビアのワッハブ派……。そのほか、レバノンにはキリスト教のマロン派、エルサレム

のベギン首相と平和条約に調印した。この結果、エジプトは東切り首扱いされて、アラブ世界から総スカンを喰らった。代わってアラブ世界のリーダーとしてのしがたってきたのが、イラクのフセイン大統領である。

今回の湾岸危機でアメリカは、フセインを、勝手に他国に攻め込んだ侵略者であると非難した。アラブ人の側から見ると、それならなぜ、同じことをしてきたイスラエルを非難しないのか、ということになる。

### ●エジプトからイラクへ、中東の聖主パトロン

対イスラエル戦をいちばん熱心に戦ったのは、エジプトだった。けれどナセル大統領の死後、サダト大統領は、それまでの親ソ路線を改め、アメリカに接近する。そして一九七三年、キャンプ・デービッドで、イスラエ

アメリカは今何年かして、イラクにキツイお灸をすえようとして決意している。このままだと核兵器を開発、今度はイスラエルと本格的な戦争を始めかねない。それに、パレスチナ問題でうっかり譲歩すると、フセイン大統領をアラブの英雄にしてしまう。そこでフセイン大統領は妥協することなく、10〜15万の増派を決定、腕をたくたくやわらせた。舞台裏の駆け引き。

アメリカの根回しで、国連の安保理理事会は、一月十五日までに国連決議に従わないと武力行使するぞとイラクに警告。その圧力を背景に、フセインはフセインに、直接話し合おうと提案した。いよいよフセイン大統領は、勝ち目のない戦争突入か、向う丸つぶれの撤退か、どちらかを選ばなければならなくなった。

形勢不利と判断したのか、二月六日、イラクは人質の全員解放を発表した。アメリカをはじめ各国は、これを歓迎。人質問題が片づけば、イラクの言い分だとして一理あるんじゃないかと、耳を傾ける国が増えるかもしれない。アメリカも少しは、イラクに譲歩せざるを得ないだろう。戦後すつと無視されてきた、パレスチナ人の権利をどうやって回復するか。イラクをどの程度までこらしめればいいのか。イスラエルとアラブをどうやって仲よくさせるか。この複雑な方程式が解けるかどうかにか、中東の行く末がかかっている。

↓ エルサレム旧市街には、メッカ、メディナにつくイスラム教信者の第3の聖地神殿の丘、ユダヤ教ゆかりの嘆きの壁、キリスト教信者巡礼地のひとつで、キリストが十字架にかかったゴルゴダの丘等々多数の遺跡がある

## [エルサレム旧市街]



橋爪大三郎(はしづめ だいさぶろう) 社会学者。「現代思想はいま何を考えればよいのか」(勁草書房)を1月に出版の予定。……急ごしらえの「国連平和協力法」は、世論の反対にあって腰くだけになりましたが、平和のために日本が何をすればいいのかが宿題のまんま。世界情勢をよく見て、国民が知恵を出しあっていく必要があります。

「ル・クル」第3巻第2号 pp.162-163  
学習研究社 (1991年2月号)

のユダヤ教徒、……と、中東は宗教の博物館と言われている。そのほか、クルド族、ベルベル族など、小さな民族集団が沢山ある。まあまあ平和に暮らしていたものを、片方に武器弾薬を与えてそのかす。パース(アラブ復興社会党)やムスリム同胞団なども入り乱れ、中東は紛争の火種だらけの「火薬庫」になってしまった。

### ●アラブ諸国の独立は、植民地の線引きをおおむね踏襲したもので、これらの火種もそのままだと持ち越されてしまった。しかも、パレスチナ地方に住んでいたアラブ人、つまりパレスチナ人は、独立を約束されていたのにユダヤ人が割り込んできて独立しそこなったため、火種がもうひとつ増えってしまった。

### ●店ざらしの国連決議

パレスチナ問題を解決するため一九四七年、国連はこ

戦争の後には、国連の安全保障理事会で、こんな決議が採択された(二四)豆知識。①イスラエルは占領地から撤退すること。②アラブ側はイスラエルを承認すること。③パレスチナ人の権利を回復すること。ところがイスラエルは、この決議にも知らん顔である。

### ●和平をめぐり、舞台裏の駆け引き